二小だより

No.10（１１月号）
令和８年１０月２３日
武蔵野市立第二小学校

うどんは本当にのびるのか？

副校長　藤間　研吾

「のびるから早く食べなさい。」
皆さんもご自身のお子さんに一度は言ったことがあるのではないでしょうか。
東京都では、毎年「東京都小学生科学展」を開催しています。東京都の理数好きの小学生が、自ら決めたテーマについて深く研究した成果を展示・発表することを通して、理数についての能力を高め、理数好きの児童を更に増やすことを目的とし、平成 27 年度に始まりました。今年度の武蔵野市の代表は本校の児童でした。研究テーマは、ズバリ！「うどんは本当にのびるのか？」です。私は、うどんは時間が経つとのびるものだと教わり、そういうものだと疑いもなく育ってきました。皆さんはどうでしょうか。

次期学習指導要領では、現在の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に統一される方向性が示されています。その内容で私が最も注目しているのは「探究のテーマ設定」です。端的に言うと、従来の「あらかじめ用意された課題」から、「児童が自ら問いを見出すプロセス」へと大きくシフトしていきます。そう聞くと何だか身構えてしまいますが、そんなに難しいことではありません。今回紹介した「うどんは本当にのびるのか？」のように、探究のテーマは身近なところに溢れています。自分の「好き」「得意」や「興味」「関心」を出発点にすればよいのです。
小学校では、まず身近な生活や地域、自分の興味から「なぜ？」を見付けることから始めていきます。ご家庭でも、日常に溢れる子どもたちの「なぜ？」に耳を傾け、「そんなの当たり前でしょ。」なんて言わずに、「なんでだろうね。」とその疑問を共有し大切にしてあげてください。その積み重ねが、子どもの問いを見出す力の向上に繋がっていくはずです。

交通安全指導にご協力ください

生活指導主任

子どもというのは、どうしてあのように危なっかしいのでしょうか。もっとよく見ていれば、ぶつかるはずのないものにぶつかったりします。しかし、それにも道理があります。

大人の視野は、左右約 150 度、上下約 120 度あるのに対して、幼児は左右約 90 度、上下約 70 度しかありません。横を向かなくても見えている範囲が、大人はほぼ真横近くまであるのに対し、子どもは前方の限られた範囲だけになります。ということは、同じ道を歩いていても、大人は見えているものが、児童の視界には入っていないということがたくさんあるということです。それでは事故に遭いやすいのも無理ありません。ちなみに、高学年ころに大人の視野に近づきます。

第二小学校では日頃から児童に交通安全指導を行っています。例えば、左右をよく見て、自動車やバイクが本当に止まっているかを確認してから道路を渡るようにと話しています。また、子どもというのは急に道路に飛び出してしまいます。道路の反対側に友達や家族がいて、思わず飛び出してしまうということも起きます。これも視野の狭さと無関係ではないでしょう。

これから年末にかけて交通事故が増加する時期になります。いかんせん学校では全体指導にとどまりがちです。ぜひ、ご家族で町を歩くときなど、児童の視野の狭さというものを念頭に、道路の渡り方や自転車の乗り方などについてお話くださいますようお願いします。